

福竜丸だより

都立・第五福竜丸展示館ニュース

(財) 第五福竜丸平和協会

〒136 東京都江東区夢の島3-2
都立・第五福竜丸展示館内
電話 (521) 8494

10月来館者数 3390名

月平均来館者数 3470名

日平均来館者数 133名

通算来館者数 138796名

主張

跡をたたない核実験に抗議する

広田重道

止まらない核実験
去る八月、統一行動として七九年原水禁世界大会が広島でひらかれているとき、三日にアメリカが、四日にはソ連がそれぞれ地下核実験を行いました。まるで、われわれの原水爆禁止のねがいに挑戦するかに感じられ怒りを禁じられませんでした。

九月に南アフリカで核実験が行われたのではないかとこの衝撃的なニュースがアメリカ政府によって流されました。(十月二十六日)その真偽はついに不明のままです。

止める力はないのか
さらにパキスタンの核実験の可能性もあるとの噂もあります。こうした事態はわれわれに幾つかの事を示しています。

第一に、一九六三年の部分核実験停止条約の成立や六八年の核拡散防止条約の成立にも拘らず、仏、中国の実験や米、ソ、英の地下実験も依然として強行されています。

第二に、南阿やパキスタンの核実験について、国連などに何ら効果的な禁止措置がとれないという嘆かわしい現実です。

第三に、核実験は核軍拡競争の具体的な現れの一つでもあるのに、最近は何とはなしに放任されているかに見えることです。

核実験反対の声を
われわれは核兵器の全面的禁止——核廃絶を主張しています。しかし、それだけを唱えていても問題は解決しません。核兵器の使用、持ち込み、貯蔵、実験などにそれぞれ反対して、効果的な手段をとるべきです。

もちろん、その効果的措置の形や方法などは、個人、団体のそれぞれのおかれている条件で画一的にはきめられないが、や

好評借し出し中
展示用組パネル「第五福竜丸」

全紙 (たて44cm×よこ55cm) パネル9枚で、第5福竜丸の焼津港から展示館に保存されるまでの歴史をたどる。

■借し出し料 = 1回 1000円 1週間以上 3000円

■詳細は第5福竜丸平和協会 (521) 8494へ

はり何らかの形で強く意志表示をすべきでありましょう。ノー・モア・ビキニを叫ぶわれわれの当然の義務でしょう。

新刊紹介

堀五邦夫著
原発ジプシー

現代書館版

原発における安全性が改めて問われ、自主・民主・公開の三原則の堅持が叫ばれているとき若いポライターが自ら原発労働者となり、美浜・福島・敦賀の三つの原発の底辺の労働状態を体験し、記録したのがこのユニークな本である。

それは原発の安全性にたいする現場労働者からの告発であり、原子力の平和利用そのものが営利主義によって、どんなに毒されていくかを、身の毛のよだつような事実をもって抗議している、いわば怒りの記録である。地底にもひとしい闇のなかの

展示館だより

展示館の出入口など
改良工事が完成

去る十月十九日の台風による天井ガラス四枚をふくめ、要望されていた出入口の改修工事が十一月五日で完成しました。これにより従来、観音開きであった出入口が左右の引き戸となり、来館者の出入がいつそう円滑になりました。

また、協会でもガラスその他若干の修理を行いましたので、十一月の展示替とともに、展示館そのものの様相が一段と改善される見込みです。

来館者通算
十五万人に近づく

展示館の来館者は、十一月に入ると上旬に十四万をこえましたので、年内に十五万人に達する可能性が濃くなっています。

展示館の運営をまもる平和協会としては、この十五万人の目標の達成を期待していますので

拡大評議員会の開催

かねて懸案となっていた拡大評議員会が左記の如く開かれることになりました。

十一月十四日午後二時
市ヶ谷 私学会館

編集後記

▽10月19日の台風には流石に息をつめる思いでした。なにしろ夢の島公園の樹木がばたばたと倒れたのみか、展示館の大屋根のガラスが破れて、雨が吹きこむ始末でしたので、一時はどうなるかと不安でした。

▽嵐がやってくる。一万年目に木曾の御岳山が噴火する。とても只ごとではないが、それでも核爆発と比べたら、物の数ではない。

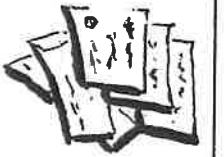
▽南阿の核実験が問題になる。実際にやったかどうか不明でも起りうるのだとは、世界の常識になっている。しかも、国連もこれを止める力がないことに恐怖を感じる。

▽人間の作ったものを人間が抑え切れなくなっているのが原子力の利用なのだろうか。

▽学童や生徒の見学がやっとふえてきたことはうれしいが、もっとふえてほしい。関係者のご努力を切望します。

連載

平和をねがう人々の声 (3)
久保山さんによせられた手紙



◇教師からの手紙
児童からの手紙を読むうち、ひとつの光景を思い描くようになりまして。秋日和の森閑とした教室、子供たちが真剣な面もちで原稿用紙に向かい、先生がそれを見守る。

教師は素朴な生徒たちの手紙を読むことによって、ビキニ事件、久保山さんの死への怒りと悲しみを、さらに深めたことでしょう。

生徒と共に寄せられた教師の手紙の多くは、「教育者」としての「平和」への新たな決意を感じさせ、教育の基本を見る思いがしました。

◇◇◇
肉親の皆様の手厚いかんごの甲斐もなく、今は亡き人となられました久保山さん、また御家族の皆様を思うと、耐えられぬ悲しみとそれにも増しての

にくしみの心でいっぱいでございます。この悲しみ、このにくしみは日本人全体の気持ちに通ずるものと信じます。私も日本の教師として、大切な人の命をあげずかり、命だけは大切にしなければならぬと常に念願しております。現在のようにならぬ安な社会情勢では、いづうなるかともわからない。けれど、とにかく平和を愛し、平和に生きるべき強い信念でやっていこうと思っております。おくさまの悲しみも他人事と思えず、我が身の痛さにも等しく感じられます。でも、この悲しみを悲しみだけに止めず、私たちは真に平和な世界が作られるよう努力していきましよう。大勢の味方を信じ、おくさまはじめ皆様が生きられん事を祈ります。

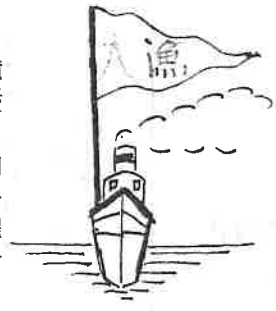
安倍郡服織小学校 中口君代
※二年一同として十二通同封

◇さまざまな善意
便せんも内容もすべて生徒の自由意志としたもの。「原水爆被害者のみな様へ」とタイトルを統一したもの。絵日記で書かれたもの。本や習字やおもちやなどをクラスで集め小包にしたもの。心の配り方は、それぞれ教師の個性がそれとなくにじみ出ています。

◇◇◇
毎日、新聞・ラジオを通じて久保山様の御容態をお聞きし、クラスのもの一同じっとしてはおられず、筆をとった次第です。只今、私たち一同は久保山様を始め患者様方が一刻も早く、快方に向われますよう、ひたすら念願しております。

尚、同封のお金は僅かで恐縮ですが、患者様方のお部屋のお花でもと、一同があつめたものですから、何卒おおさめ下さいませ。

熊本市立出水中学校
第二学年二組一同
前記の手紙は当時、国立東京



横浜市 国谷耀子

展示館でのアンケート調査

第三回中間報告

展示館でアンケートを始めてから約半年、その間、八百名の方の協力が得られました。その結果をまとめてみました。

【男女別】

男性 五一七名 六四・六％
女性 二七七名 三四・六％
不明 六名 〇・八％

【年齢別】

10才以下 一四六名 一八・三％
20才以下 二九八名 三七・三％
30才以下 二三五名 三二・九％
40才以下 九七名 一二・一％
50才以下 五六名 七・〇％
60才以下 三三名 四・〇％
70才以下 二〇名 二・五％
70才以上 五名 〇・六％
不明 十一名 一・四％

【職業別】

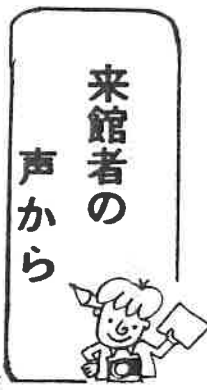
学生 四四四名 五五・五％
会社員 一三名 一・七％
公務員 七名 九・〇％
主婦 五一名 六・四％
自営業 十九名 二・四％

【回答別】
1. あなたは、この展示館を次のどれで知りましたか。
① テレビ・ラジオ 六五名 七・八％
② 新聞 一〇六名 一三・七％
③ 書籍雑誌 三五名 四・二％
④ 人から聞いた 四二名 五・三％
⑤ その他 二二七名 二八・〇％

(注)この項目は、回答に重複が多い。
2. あなたはビキニ事件と福竜丸について
① 知っていた 四九一名 六一・四％
② 初めて知った 三〇五名 三八・一％
③ 不明 四名 〇・五％
3. あなたは広島・長崎に原爆

が投下された事を

① 知っている 七四四名 九三・〇％
② 知らない 五五名 六・九％
③ 不明 一名 〇・一％
4. 展示館を見学して、どうでしたか。
① 感動した 三九六名 四九・五％
② 良くわかった 三五八名 四四・八％
③ 良くわからなかった 四〇名 五・〇％
④ 不明 六名 〇・七％
5. その他自由に書いて下さい
① 原水爆の恐ろしさがわかった 九〇名 一一・三％
② 展示館の保存を望む 八〇名 一〇・〇％
③ 船に興味をもった 六四名 八・〇％
④ かわいそう 三三名 四・一％
⑤ 平和な世界を望む 一九名 二・四％
⑥ 来て良かった 十八名 二・二％
⑦ 建設・保存の苦心がわかった 十五名 一・九％
⑧ 展示館への提言 二五名 三・一％
⑨ その他 六二名 八・〇％
⑩ 無記名 三三二名 四七・九％



先般、都の主催する見学会の折に立ち寄ったが、今日改めて来館の機会に恵まれ、感想のエッセンスたる感想文を読み、来館される老若男女が書きつづられていく総てのページに目を向け、改めて平和への願いを強烈なものとして受けとめた。
核兵器、文字で書けばたったの三字だが、この三字の恐ろしさに接し、怒りと、感動の交鎖する一時であった。
平和は力や鉄砲では得ることの出来ない事を肝に銘じて

Y・K生
最近身近かに原水爆のニュースも少なく、忘れがちであったが、今日改めて実験を含めて使用されてはならないと痛感しました。これから育っていく子供達のためにも、平和を守っていかねばならないと思いき知らされました。 K・H 主婦

1979.11

特別資料

平和教育の場——第五福竜丸展示館の使命

財団法人 第五福竜丸平和協会専務理事 広田重道



■はじめに

ことしの夏、いろいろと波乱はありましたが、原水禁世界大会が統一の形でひらかれました。その国際会議は、七月三十一日から八月二日まで、東京でひらかれましたが、その第二日目は問題別の分科会で、第三分科会は、「平和・軍縮の教育と世論喚起のために」でした。

この分科会では、専門家の報告につづいて、教育の現場の体験をふまえて、多くの学校の教師からの発言があり、耳を傾けさせるものがありました。とくに、『具体的な現物に接するところが平和教育の効果を高める』と主張され、広島や長崎の原爆資料館や東京・夢の島の第五福竜丸展示館などが、平和教育に果たす役割の大きいことを指摘された発言は、印象的でした。そうしたふん囲気のなかで、

わたしは第五福竜丸の事件——ビキニ事件を広島・長崎の悲劇とともに取り上げることが、それらの事件を核戦争の側面から一体のものとして考えることであり、展示館は平和教育の具体的な教材であり、その見学がきわめて重要なことを訴えました。しかし、その発言はきわめて短い時間でなされたもので、必ずしも意をつくしていなかったと思えますので、ここに改めて大意を述べさせて頂きます。

■広島・長崎・ビキニを貫くもの
広島・長崎の被爆の実相が、国連を舞台に、国際世論の上で改めて問われているこの頃でもなせかビキニ事件は過小に扱われていくか見えます。

もちろん、世界の原水爆禁止運動をリードしている日本の運動の基盤が、広島・長崎にあることは、明らかですが、同時に

その運動が公然の幅ひろい国民運動として燃えあがるキッカケを作ったのは、ビキニ水爆被災事件であったことも事実です。だからと言って、ビキニ事件が広島・長崎の事件とともに日本の原水禁運動のもうひとつの原点であり、従って、同列におくべきであるなどと主張しているのではありません。

明らかに広島・長崎の事件とビキニ事件とは、かなりにちがった様相をもっていますし、歴史的にも、時間的にも異なった点のあることも事実です。しかしわたしは敢て共通点を追及してみべきだと考えています。

そうすると、広島・長崎の被爆事件がともに第二次世界大戦の末期におこった戦争被害であり、同じようにビキニの被災事件が広島・長崎の悲劇にも拘らず激化してきた核戦争をめざす

核軍備競争のなかから引きおこされてきているという歴史的な位づけから、ともに核戦争という共通の視点からみられるべきであるということです。

第二次世界大戦がなかったら広島・長崎の悲劇はおこらず、広島・長崎でアメリカの原爆の威力が実証されなかったら、一九四六年の第一回ビキニ核実験はおこらず、ソ連とアメリカとの烈しい核兵器開発競争もおこらず、一九五四年のビキニ事件もおこらなかったに違いないのです。

■ノー・モア・ビキニの意味

ノー・モア・ヒロシマ・ナガサキにつづいて、ノー・モア・ビキニと叫ぶとき、それは単なる核兵器の製造・貯蔵・実験や使用をふくむ完全禁止をもとめているだけでなく、核戦争そのもの

の阻止を意味しています。その点では、広島・長崎とビキニとは切りはなせないことになりそうです。ノー・モア・ヒロシマ・ナガサキ・ビキニのローガンは、極めて自然のものと言えます。

さらに、広島・長崎への原爆投下、東京大空襲などは、同じ太平洋戦争のなかの出来ごとであり、一体のものとして捉えられなければならず、第五福竜丸に表徴されるビキニ被災事件も核戦争の問題として、考えるべきであります。

そういう観点からするならば、広島・長崎・ビキニを繰り返すなりのスローガンは、いま、人類の直面している「生存か死滅か」の危機にたいする警告と、その危機から抜け出すための人類の決意を表明するものと受けとるべきであります。

■ビキニ事件の再認識と

展示館の見学

ビキニ実験をふくめて一般に核実験といわれているのは、単なる実験ではなくて核戦争準備

のための核軍事演習であることは、今日明らかです。

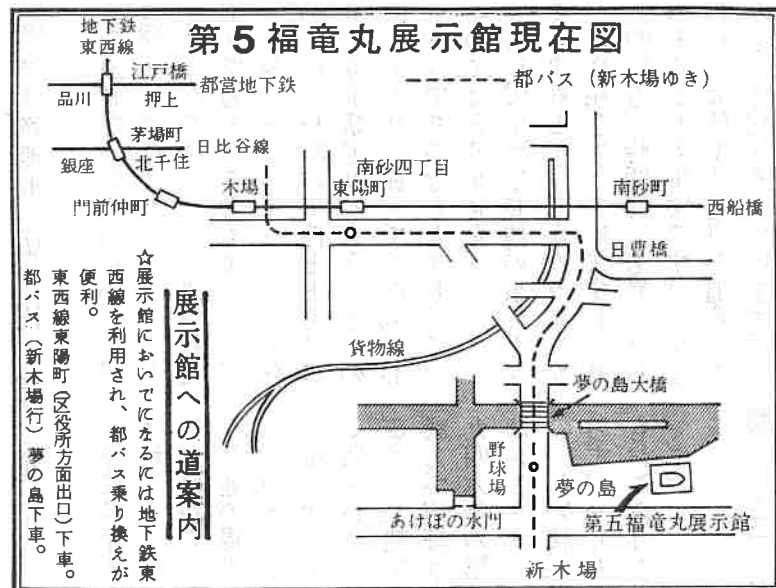
それは国連憲章の精神をふみにじり、信託統治領や少数民族領内で依然として強行され、世界人類に多大の被害を与えながら続行されています。ビキニ事件はまさにその見本であり、これを正しく捉えることは、核実験そのものの本質を見きわめ、告発することであり、平和教育上、看過できません。

そのビキニ事件を正しく認識するという平和教育の一つの課題のためには、東京都江東区にある第五福竜丸展示館の活用こそ有効な道であります。

その展示館は、一九七六年六月十日に開館されてから三年目の去る十一月四日に来館者数は十四万名をこえていて、一日平均一三三名、月平均三、四七〇名となり、なお増加の傾向にあります。

これは、一般に展示館の意義が理解されはじめたことを示しています。同時に教育に関係する良心的な人びとの努力に負

うことが少くありません。また少く、今後問題を残していると言えます。(おわり)



入場無料 毎日 9:30~16:00 月曜休館
団体見学は予め電話してください。 TEL (521) 8494

財団法人 第五福竜丸平和協会

〒136 東京都江東区夢の島3-2